

項目	具体的努力目標	自己評価		改善策など	4段階評価	学校関係者評価	
		達成状況など				4段階評価	ご意見
①豊かな心の育成	○人権教育の徹底 (いじめのない学校)	○「どなりんタイム」や「ありがとうの木」の取り組みを通じて、様々な人権問題について考えるとともに、自分たちを支えてくれる人たちの存在に気づき感謝できる生徒や仲間づくりに努めた。 ○学期に1回ずつ大研を実施し、計画的に人権学習に取り組んだ。特に事前の教材研究や事後の校内研修を通して、教職員の資質向上を図ることができた。 ○人権教育に関する項目では、生徒・保護者・職員ともほぼ100%が肯定的な評価だった一方、「そうでない」という意見もあり、今後の課題となった。 ○「私にはよいところがある」という設問では、生徒の肯定的な評価が昨年の80%から82%となる一方、「そう思わない」という生徒が全体の4%あったため、自尊感情を高められるよう、次年度も継続して取り組んでいきたい。		A	○人権課題を自分の問題としてとらえるとともに、自分の生活をより良い方へ活かしていける取組をさらに進めていく。 ○毎月の生活アンケートや校内巡視などを利用し、生徒の実態把握に努め、生徒が過ごしやすい学校づくりに今後も取り組んでいくとともに、生徒が自己肯定感を高められるよう引き続き取り組んでいく。	4	○SNS上でのいじめへの対応や、使用上のルールの徹底が必要。 警察など、プロの話を聞いてみるのもよいと思う。
	○道徳教育の推進	○ローテーション道徳を取り入れた学年も増え、学年団が同一歩調で授業作りに取り組むことで、学年単位で教材研究を行い、共通理解を図りながら授業に活かすことができ、生徒にも概ね好評であった。		A	○授業力の向上をめざした研修(研究授業・授業研究会)を引き続き行う。 ○ローテーション道徳を継続し、担任だけでなくすべての教員で道徳教育に取り組んでいく。	4	○日本の学生の自己肯定感の世界に比べ低いのが、この評価では82%に上がっている。自己肯定感の向上に引き続き取り組んでほしい。
	○生徒指導の充実	○「目を見て話を聞く」「あいさつをする」「掃除に一生懸命取り組む」の3点を今年度の目標とし、全学年で取り組んだ。特に目を見て話を聞く、あいさつをする、については生徒・職員とも肯定的評価が90%を超えている。 ○「学校に悩みを相談しやすい」については、保護者・生徒とも昨年度より肯定的な評価が上がっており、今後も継続して取り組んでいきたい。 ○生徒指導委員会で、各学年の課題について改めて確認するとともに、学校としてどのように取り組んでいくべきかを話し合いながら同一歩調で生徒指導に当たれるよう、生徒指導主事を中心に取り組んだ。 ○学年間や部活動など、教職員間でアプローチできる様々な角度から絶えず、気になる生徒についての情報共有を行い、指導につなげた。		B	○生徒観察や生活アンケート、生活記録から生徒の変化を捉えて、積極的な生徒指導の徹底を実践していく。 ○学年単位だけでなく、教師間の会議や連携で積極的な生徒指導を実践していく。 ○日々の学校生活や教育活動等の中で、人間関係を深めながら生徒に寄り添い、今後も悩みを相談しやすい雰囲気を作っていく。	3	○「あいさつ」の取り組みは全体的に上がっていると思う。礼儀正しくなった。
②特別な学力の育成	○基礎的・基本的な知識・技能の徹底	○「2分前着席」や「授業の目標提示」などを続けていることで、落ち着いて授業に入り、集中して学習できる生徒が増えている。 ○与えられた課題に対して、解答を見て写すだけになっている生徒が見られる。 ○生徒は「授業に真面目に取り組んでいる」が93%、「授業はわかりやすい」が86%とおおむね肯定的な評価である。 ○昨年度と比較すると、「読書の習慣」の項目では、保護者が31%から27%、生徒が41%から35%へと低下している。しかし、「家庭学習の習慣」の項目では、保護者が53%から59%、生徒が64%から70%と向上している。 ○タブレットを用いて、生徒それぞれのペースに合わせた学習を進めていける環境作りができている。 ○帰りの会で、1日の振り返り等をテーマにしたインタビュー活動を続け、深く考える力が育ってきている。		C	○家庭学習の意義指導に加え、深く思考する機会を増やして言語力や表現力を養わせることで、学習習慣・基礎学力の定着につなげていく。 ○特別支援学級の生徒やスローラーナーに、ICTを用いて個に応じた指導を行うようにする。 ○自分の課題を見つけ、その解決に向けて調べたり、学び合ったりしながら主体的に取り組めるように実践していく。 ○図書委員会の活動を充実させ、図書の紹介や魅力を発信させる。また、メディアコントロールデーなどを利用して、保護者にも読書時間確保についての協力をいただく。	3	○学力の基礎基本として、読書をはじめ、コミュニケーション能力の育成はとても大事だと思う。 ○読書習慣が低下しているのは残念だが、家庭学習の習慣が向上しているのは素晴らしい。
	○キャリア教育の推進	○各学年とも、キャリア教育推進計画に基づいて、進路指導を総合や学活の授業を利用して取り組んでおり、生徒も将来についての考えを家庭で話している。「ご家庭では、お子様と進路や将来のことについて話をしている。」という項目では、昨年度87%から今年92%へと上がっている。 ○将来や進路についての学習に対する肯定的な評価は、職員89%に対し生徒71%と差があり、学習した内容が生徒に浸透していくよう、これまでに以上に指導の工夫が必要である。		B	○職場体験やゲストティーチャーを招いての講演など、これまでも地域や社会と連携して、生徒が進路や将来について考える機会を設けてきたが、今後も次期を見て実施していきたい。 ○キャリアパスポートの活用に向けて共通理解を図る。	3	○「読書の習慣」を身につけさせる、定着させるのは難しいと思う。 中学生の1週間の生活スタイルがどうなっているのかの実態を考えると、余計にそう感る。小学校の実態がどうなっているのかも考慮しながら考えてみる必要があると思う。
	○総合的な学習の時間の充実	○今年度も体験学習などに積極的に取り組み、ゲストティーチャーを招いての講話や、職場体験を行い、事前・事後の活動も含め、生徒自身も楽しんで学習に取り組むことができた。また学年だより等を通じて家庭への発信にも務めた。 ○地域のことや将来について調べ学習を行うことで、生徒たちの地域に対する関心や、自己認識を深める機会を設けることができた。		B	○他教科や学校行事との関連を考えて、総合的な体験学習の実施計画を立てる。 ○生徒の興味・関心に基づく内容等、主体的に活動に取り組める学習内容を今以上に考えていく。	3	○本の良いところは、何度でも読めるところ。興味を持たせるため、廊下に本を置いたり、親が読んでいた本を身近なところに置いたり、図書室をカフェのようにしてみたりするのもよいかもしれない。
	○特別支援教育の推進	○学級の連絡ファイルや帰りの会等で、保護者や生徒とのコミュニケーションを取ることができた ○個別の指導計画で、生徒に関わる多くの教員がその生徒の特性を考えて指導の目標を立て授業に臨むことができた。教員の情報共有としても利用することができた。 ○特に配慮の必要な生徒の対応等について、支援学級担任者で情報を共有し、指導に活用することができた。 ○支援学級では個別の対応が必要な事例が増えているが、「特別支援教育の充実」の項目では、肯定的な評価が昨年度の86%から94%と向上しており、生徒・保護者や関係機関との連携がスムーズに行えていると考えられる。		A	○スモールステップで授業を行い、生徒一人一人が達成感を味わうことができる支援を行う。 ○交流学級での生活を通して、多くの人と共に活動する楽しさを味わうことができる支援を充実する。 ○生徒個々に対して可能な範囲での支援を実施し、関係機関との連携も行いながら、生徒の基礎学力や自立の支援につなげる。 ○支援学級担任者の情報交換を密にして連携を強めていく。また、管理職や交流学級担任とも連携して支援にあたっていく。	4	○読書の習慣化を図るため、小学校では呼んだ冊数に応じてポイントを与えられ、ランクが上がっていくなど、競争心を持たせている。 中学校でもやってみてはどうか。 ○支援の情報交換など、連携は今後も継続してほしい。
	○食育の充実	○給食時間は、放送委員会と連携を図り、食に関する啓発活動を継続することができた。 ○栄養教諭による食育パワーアップ事業を実施し、食に関する知識を深めることができた。 ○文化祭で徳島県の郷土料理のフードモデルを展示するなど、保健委員会を中心に取り組むことができた。		B	○関連教科でもより一層食育に関する学びを深め、家庭での生活を振り返る必要がある。 ○引き続き栄養教諭と連携をとり、個別指導や食育パワーアップ事業を充実させていく。	3	○阿波市は農業の盛んな地域なので、地元を活かした食育の取り組みに期待したい。
③健やかな体の育成	○健康・体力向上の推進	○部活動に積極的に参加捨てている生徒の数値があがっており、対外的にも好成績を残す部や生徒が多く見られた。またお互いの部が刺激し合うことで、各々がこれまでに以上に積極的に取り組む様子が見られた。 ○体育の授業では、3学期に持久走を実施し、体力を向上させる取り組みができた。継続して行うことで、体力の向上を実感できた生徒も多く、体力向上の意義や必要性を指導することにもつながった。 ○今年度は対外的に活躍し、立派な成績を収めた部も多く、生徒の「部活動に積極的に参加している」の項目では、肯定的な評価が88%(R6 80%)と向上した。 ○健康診断や身体測定で、自分の発育・発達に気付かせ、受診が必要な場合は、面談でも再度受診を促す機会をもった。 ○長期休業中の生活リズムチェックや定期テスト前のメディアコントロールなどの生活習慣改善に取り組み、生活習慣のよい振り返りを繰り返し行った。		B	○体育や部活動など、ほとんどの生徒は積極的に活動できているが、全く活動できていない生徒もいるのが現状なので、運動が全くできていない生徒にどう、運動を実践させていくかが課題である。 ○自らの体調や体力だけでなく、仲間の体調や体力にも気付き、望ましい関わり方ができるよう指導していく。 ○生活習慣改善は家庭との連携も課題になるため、小中連携など様々な手立てで発信する必要がある。	3	○通学に車の送迎を利用している生徒を見かける。自転車通学も体力の向上につながると思う。朝のラジオ体操も続けてほしい。
	○安全教育の充実	○「交通マナーの指導の徹底」という項目では、肯定的な評価が生徒・保護者がそれぞれ97%、99%と高い数字であった。 ○避難訓練を3回実施した。10月には、火災を想定した避難訓練を実施し、グラウンドに避難した。1月には、地震を想定した避難訓練及び抜き打ちでの訓練を実施した。ただ放送が校内全体に届かず、緊急時に生徒・職員にどのように伝達するのかが今後の課題となった。		A	○大半の生徒・保護者が交通マナーを遵守していると回答している一方、地域から交通マナーに対するご意見をいただいたこともあり、学校・学級での交通指導も引き続き実施していく。 ○より実際の災害を想定した訓練内容を想定し、関係機関や保護者との連携もふまえて訓練を計画していく。	4	
	○生徒会活動・学級活動の充実	○リーダー育成のため、生徒会を中心に定期的にリーダー会を持ち、生徒自身の自覚を高めるよう取り組んだ。また各種行事に際し、生徒会・リーダー会で事前に打ち合わせを行い、できるだけ生徒の意見をが主体的に行事に取り組める場を設けた。 ○生徒総会では、メディアコントロールを取り上げ、各クラスで話し合った内容をリーダー会に持ち寄り、検討したうえで生徒総会に臨んだ。また話し合った内容を元に今後の生活につなげていけるよう、全校生徒に呼びかけた。 ○学級では、一人一役で1年間責任をもって取り組もうとする姿が多く見られた。 ○阿波市中学校生徒会交流会に参加し、各校の取り組みを互いに紹介し、意見交換を行った。 ○今年度も小中交流会で小学生を迎えるにあたり生徒会・リーダー会を中心に協議し、小学生への説明を行った。小学校や児童からは「中学生生活への不安が減った」「部活動や行事の楽しさを知ることができた」などの声も聞かれた。		A	○教師のサポートのもと、生徒は主体的に活動に取り組むことができた。今後も生徒会担当や学級担任まかせにならないように、全教職員の目で全生徒を見守っていける体制を更に構築していくように務める。 ○生徒会・リーダー会を定期的に開催することで、生徒自身に、自分たちが核となって学校を変えていこうとする気持ちが生まれつつある。今後も継続して取り組んでいきたい。	4	○修学旅行について、保護者説明会はもっと早くやって欲しい、という意見が聞こえた。準備は保護者が行うため、実施時期は考えたほうがよいのでは。
④特別活動の推進	○環境・福祉ボランティア教育の推進	○学校クリーンデーを定期的に開催し、部活動を中心に、校内環境美化活動に多くの生徒が参加した。 ○緑化推進委員会では花の苗植えや、毎週末の清掃、花壇の世話など、環境美化に努めた。 ○人権ボランティア委員会を中心に毎年取り組んでいるペットボトルキャップの回収では、各クラス単位で回収し、生徒たちの意欲向上にもつながった。 ○清掃に関する項目では、肯定的な評価が生徒の97%に対し、教師66%と差があり、差を縮めることが今後の課題でもある。		B	○生徒会を中心に各学級でキャップやブルタブ集めの意義を伝えていく。 ○日々の清掃活動を充実させ、時間いっぱい清掃に取り組む生徒を育成するなど、普段の活動を大切にできる生徒の育成を目指す。	3	○清掃は家庭でも取り組めるので、家族と協力しながら清掃の意識を高めてはどうか。
	○校内研修の工夫改善と計画的な実施	○各学年で道徳・人権学習の大研を実施した。授業後の研究会も積極的な意見が数多く出て、充実したものとなった。 ○学年主任を中心に、学年運営や生徒指導、特に問題行動への予防や対応等についての話し合いができ、実際の指導に生かすことができた。また職員間の雑談でも生徒についての情報交換や指導、先輩教師から若手への助言も見られた。 ○生徒のよさと課題、それらを踏まえた取組を考える研修を行い、各学年で考えた取組を実施した。成果を可視化することで、生徒の意欲向上につながった。		B	○生徒たちの生活の改善に反映させられるような大研、研修内容にしていく必要がある。 ○各学年で話し合われた内容を全職員で共有し、学校運営や学年、学級経営に生かせるような体制づくりを行う。 ○教職員の多忙感を改善するために、研修の仕方やテーマを精選する必要がある。	3	
⑥開かれた学校	○家庭・地域社会関係機関との連携	○体育祭、文化祭の公開のほか、授業参観など、保護者の方に生徒や学校の様子を見てもらうことができた。 ○地域ボランティアによる「朝の読み聞かせ」のほか、「ドナナリエ夏」など地域の行事に参加を通し地域との連携を図った。 ○不登校傾向にある生徒の支援で、阿波市子育て支援課や阿波市教育支援センター青少年育成センターなど、各関係機関との連携を図ることができた。 ○全学年で学年通信を定期的に発行し、保護者への情報発信を行った。		A	○今後も保護者が参加できる機会をつくり、学校行事を可能な限り公開できるようにする。 ○各関係機関や校区内小学校との連携をさらに密に行う。 ○ホームページや学年通信を活用し、効果的に情報公開を行う。	4	○保護者の行事の参加は今後も続けていただきたい。また、地域との連携も継続していただきたい。
	○業務改善の推進と職場環境の改善	○グループウェアやタブレットを活用し、各種案内や職員会資料をデジタル化してペーパーレス化を進めた。また、留守番電話の導入で、職員の電話対の負担が減った。 ○マチコメールの活用で費用削減を図った。また文書のメール配信や毎日の出欠連絡・行事の出欠確認が容易になった。 ○一部の部活動では、部活動指導員など、外部人材を活用することで職員の負担軽減につなげることができた。また平日2時間、休日3時間程度の練習時間を徹底し、平日の下校時間も統一した。 ○昨年度に引き続き、週2回、職員朝礼のない日を設定し、学年内の打ち合わせなどに活用した。		B	○出勤管理システムを活用し、タイムマネジメントを正確に推進する。 ○学校行事の精選、会議のスリム化・デジタル化を進め、業務の軽減を図る。 ○地域の外部人材を活用し、部活動等の負担軽減を図る。 ○校務分掌だけでなく教科での負担も確認しながら、校務分掌など、職員の負担を軽減していく。 ○業務のスリム化に取り組んでいるものの、依然としてさまざまな業務は残っており、思い切った慣例や行事の見直しなど、引き続き取り組む必要がある。	3	○業務のスリム化の課題は多いと思う。職場環境の改善には今後も取り組んでほしい。